

「利他の心」を永久に とわ

私は、「人のため、世のために役立つことをなすことが、人間として最高の行為である」そして、「人類の未来は、科学の発展と人類の精神的深化のバランスがとれて、初めて安定したものになる」という信念から、1984年に「京都賞」を創設いたしました。

私が持っていた京セラの株式や現金など約二百億円を拠出して稲盛財団をつくり、先端技術、基礎科学、思想・芸術の各分野ですばらしい業績を上げ、人類に多大な貢献を果たした人たちを選んで顕彰し、その功績を讃えたいとの思いで始めたものです。

私が尊敬する偉大な人物、西郷隆盛の言葉に「敬天愛人」があります。天を敬い、人を愛する。心に響く美しい言葉です。天を敬うとは、自然の道理、人間としての正しい道、すなわち天道をもって善しとせよ、つまり、「人間として正しいことを貫く」ことであり、人を愛するとは、己の欲や私心をなくし、人を思いやる「利他の心」をもって生きるべし、との教えであり、京セラの社是として掲げてきた私の心の座標軸ともいえる大切な言葉です。

利他の経営で社会から得たお金は、やはり「利他の心」をもって社会に還元すべきであり、そのような「利他の循環」こそが社会を真に豊かにすると考え今までやってまいりました。この京都賞は社会への恩返しであると同時に、私の利他の哲学の実践でもあります。

既に私も齢86を数えるまで年を重ねてまいりました。お蔭様で京都賞も来年、一つの節目である35年を迎えます。

日本人の持つ美德の一つである「利他」という心を顕彰事業に体現させたい、との思いを込めた京都賞が、今後さらに「光」を増し、文明や科学、思想、芸術の発展に大いなる貢献をされてきた受賞者の方々が、世界に向け燦然と「輝き」続けることを願い、このたび賞金額を一億円に増額することにいたしました。

日本の古都、そして知性と文化の薫りに溢れた、この京都に生まれた「京都賞」という光が、ささやかながら人類に勇気を与え、次代を担う人々に希望をつなぐ役割を果たすことを心より祈念いたします。

2018年4月12日

公益財団法人 稲盛財団

理事長 稲盛 和夫